

報道関係各位

2010年6月23日

ショートショート実行委員会/ショートショート アジア実行委員会

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2010 観客の視点で選ばれた6作品、オーディエンスアワード決定

米国アカデミー賞公認、日本発・アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア (SSFF & ASIA)」では、映画祭期間中 (6月10日~13日/表参道ヒルズスペース オー、6月16日~20日/ラフォーレミュージアム原宿、6月12日~20日ブリリア ショートショート シアター他) 一般来場者が全てのコンペ作品の中から各部門ごとに、来場者の投票で選ぶオーディエンスアワード (観客賞) 6作品が決定しました。対象は来場者の投票による、オフィシャルコンペティション3部門、ストップ! 温暖化部門、旅ショート! プロジェクト、ミュージック Short クリエイティブ部門、それぞれにオーディエンスアワード受賞作が決定します。毎年約1万3000人を動員する「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」ですが、今年は昨年を上回り盛況で、ショートフィルムへのファンの熱い期待が溢れるコメントも数多くいただきました。

今回選ばれたオーディエンスアワードには賞金 20 万円と副賞としてキャノンマーケティングジャパン株式会社よりデジタル一眼レフカメラ「EOS 7D」が贈られます。

■ オフィシャルコンペティション インターナショナル部門



タイトル: Just a Pitch (ある脚本家の災難)
<フランス/23:06/コメディ/2009>

監督: Eric Raynaud (エリック・レイノー)

あらすじ: 若きインド人脚本家サンジェイは、人生最大の契約を結ぶためパリの空港に降り立つ。しかし彼のパスポートの有効期限が帰国便の搭乗日前に切れることに気づいた入国審査官のロベールはサンジェイの話に耳を貸さず・・・。

(来場者からのコメント)

- ・人情味にあふれるストーリーが良かった。
- ・笑って、泣いて、ドキドキすることができました

■ オフィシャルコンペティション アジア インターナショナル部門



タイトル: August 15th (八月十五日)
<中国・アメリカ/21:53/ドラマ/2008>

監督: Xuan Jiang (スアン・ジャン)

あらすじ: 実話に基づく物語。男性の両親に会いに行く若いカップルを乗せ、バスが田舎町を走る。そこへ乗り込んだ2人のバスジャック犯。楽しい休日が一変、悲劇へと変わる。自分を犠牲にしてまで他者を守ることができるのか? 乗客たちは決断を迫られる。

(来場者からのコメント)

- ・「自分が一番かわいい」という誰もが当てはまるテーマの中で、「もし自分があの状況ならどうするか?」という事を考えさせられる作品。しかも、それが実話を元に作られた話ということに驚かされた。
- ・集団心理をついたとても印象的な作品。

■ オフィシャルコンペティション ジャパン部門



タイトル: Mr. Bubblegum (Mr. バブルガム)

<日本/13:16/ドラマ/2009>

監督: 片岡翔 (Shoh Kataoka)

あらすじ: リストラされて借金に悩む宇佐美は、公園のベンチで遺書を書いていた。それを双眼鏡で盗み読む女子高生、ヒノコ。ポエムクラブのヒノメ出しを受け、二人の素敵な遺書作りが始まる。

(来場者からのコメント)

- ・“死”というテーマを扱っているものの、ポップであり、ブラックユーモアも効いていて楽しめた。
- ・定点撮影によるショットが面白かった。

■ ストップ! 温暖化部門



タイトル: RIVER (リバー)

<日本/10:00/ドキュメンタリー/2009>

監督: 今泉真也 (Shinya Imaizumi)

あらすじ: 沖縄のある町。賑わう市場の隣にある川。コンクリで固められた都市河川に、1組の水鳥夫婦が暮らしている。慎ましくもたくましい自然の営み。しかし川は人間の影響とともにある。知られざる身近ないのちの物語。

(来場者からのコメント)

- ・地球温暖化という大きなテーマを、水鳥の夫婦という人間よりも小さな視点から捉えていて監督の実力を感じた。
- ・水鳥の夫婦が支えあってヒナ鳥を育てる場面が微笑ましく、飾らずに訴えるものがあった。

■ 旅シヨート! プロジェクト



タイトル: 井の中の蛙

<北海道・滋賀県・沖縄県/15:00/ドラマ/2009>

監督: 落合賢 (Ken Ochiai)

あらすじ: 引きこもりの青年丈は、十年ぶりに東京を離れ日本縦断一人旅に出る。母の故郷である稚内、そして思い出の場所琵琶湖、母が一度は行ってみたかった沖縄の海を訪れる道中に出会う人、風土、文化を通して成年への成長を遂げていく。

(来場者からのコメント)

- ・動画の方が少ないのにストレスを感じさせないテンポの良さとテクニックの素晴らしさを感じた。
風景が今までと違って見えることに対して、“周囲が変わったのではなく、自分が変わったからだ”というメッセージが印象的だった。
- ・電車や車などの移動を描く場面が多く、実際に旅をしてみたいと思いました。1年くらい前までは1人で電車に乗るのも苦手だったけど、この作品をきっかけに一人旅がはたくなりました。

■ ミュージック Short クリエイティブ部門



タイトル：クレイフィッシュ
<日本/9:59/ノンジャンル/2010>

監督：常盤司郎 (Shiro Tokiwa)

あらすじ：ザリガニは同じ水槽では生きられない…。父と子、そして別れ…誰もが歩まねばならない普遍的な問題を、実話に基づき監督本人が語り綴ってゆく短編叙情詩。

(来場者からのコメント)

- ・私も実家を離れて仕事をしているので両親のことを思い出しました。じーンとして実家に帰りたくなりました。
- ・人生を24時間に例えると…という視点が良かった。

映画祭公式サイト：<http://www.shortshorts.org/2010/>

Twitter：http://twitter.com/s_s_f_f

▼ショートショート フィルムフェスティバル & アジア について



米国アカデミー賞公認、日本発アジア最大級の国際短編映画祭。

1999年、東京原宿で映像王国ハリウッドに集まったショートフィルムを紹介する映画祭としてスタートして以来、有名監督の初期短編映画や、若手映像作家が産み出した作品など、これまで700本以上にも及ぶ作品が、世界50以上の国や地域から日本に紹介されています。

2004年には、米国アカデミー賞の公認映画祭として認定を受け、本映画祭でグランプリを獲得した作品は、次年度米国アカデミー賞のノミネート対象となります。また、映画祭開催初年度から毎年ジョージ・ルーカス監督に応援いただくなど、世界中の映画人から愛される映画祭として成長を遂げてきました。年々規模が大きくなる本映画祭は、現在ではアジア最大級、日本で唯一の米国アカデミー賞公認短編映画祭として、明日の映像文化を担う若手映像作家、監督たちの世界へつながるゲートウェイを創出しています。(www.shortshorts.org)

■一般のお問い合わせ先

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア (略称：SSFF & ASIA) 事務局

TEL：03-5474-8844

■報道関係の皆様からのお問い合わせ先 (作品写真紙焼き・ポジ、作品VTRその他の資料の貸出等もお申し付け下さい)

<ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2010 PR事務局>

株式会社スパイスコミュニケーションズ (内) 担当：渡辺、浅野

TEL：03-6230-0519 FAX：03-6230-0524 e-mail：watanabe@spice-japan.com